

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

4月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.230 2026.4

紹介内容 (3/1~3/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地区担い手研修会・意見交換会が開催されました
 - 美里農改：農業経営研修会を開催しました
 - 大河原農改：柴田町の担い手法人で法人経営管理指導会を開催しました
 - 大河原農改：仙南地域乾田直播勉強会を開催しました
 - 亘理農改：亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 石巻農改：新しい農業のカタチに挑む、青年ファーマー！石巻4Hクラブが通常総会を開催
 - 美里農改：美里地区みやぎ農業未来塾「病虫害防除研修」を開催しました
 - 登米農改：令和8年度登米地区農村生活研究グループ通常総会と研修会が開催されました
 - 栗原農改：女性農業者を支援！みんなでマルシェ参加講座・交流会を開催しました
 - 栗原農改：令和8年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催されました

- ③ 先端技術等の推進・普及による園芸産地の育成・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひな青年部大郷支部で水稻直播栽培研修会が開催されました
 - 美里農改：美里地区農業士会研修会「営農支援システムと米の流通ビジネス」を開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 大河原農改：いちじくせん定講習会が開催されました！
 - 登米農改：JAみやぎ登米胡瓜部会総会が行われました
 - 大崎農改：かぼちゃ栽培講習会が開催されました
 - 石巻農改：令和8年産ミニトマトでのタバココナジラミ防除対策を検討しました
 - 栗原農改：くりはらスプレーム研究会通常総会・研修会が開催されました
 - 登米農改：加工用ばれいしょ種子消毒共同作業が行われました
 - 亘理農改：きゅうりを活用した地域の味再現で復興を目指す
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなねぎ部会の出荷反省会と総会が開催されました
 - 気仙沼農改：南三陸大粒ぶどう協議会通常総会が開催されました
 - 亘理農改：宮城県農林産物品評会（野菜（いちご）部門）にて亘理管内から2人が受賞しました
 - 石巻農改：令和8年産たまねぎ現地検討会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米米山支部タマネギ部会現地検討会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.PRef.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://ameblo.jp/miyagifukyu/entrylist.html>

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- 登 米農改：麦類栽培講習会が開催されました
- 気仙沼農改：令和7年度第3回宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会が開催されました
- 気仙沼農改：気仙沼地域地域計画実現促進研修会を開催しました
- 大河原農改：令和8年度プロジェクト課題に向けた水稲乾田直播ほ場の土壌サンプリング
- 登 米農改：令和8年産の稲作へ向けて、講習会が開催されました
- 石 巻農改：麦類現地検討会が開催されました
- 仙 台農改：令和8年産麦現地検討会が開催されました！
- 石 巻農改：令和8年産乾田直播栽培講習会が開催されました！
- 登 米農改：登米市豊里町佐藤瑛彦氏が令和7年度全国麦作共励会において日本農業新聞会長賞を受賞されました
- 登 米農改：「にじのきらめき」栽培講習会が開催されました

⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- 石 巻農改：宮城県漁業士会中部支部と石巻農業士会の交流会が開催されました
- 大 崎農改：やくらい土産センター活性化研修会を開催しました
- 気仙沼農改：直産まっちゃんの勉強会が開催されました
- 亘 理農改：いちご観光農園における販売接客研修会を開催しました
- 大河原農改：村田ファーマーズ総会にて研修会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① その他・・ 12

- 石 巻農改：第2回石巻地域普及活動検討会を開催しました
- 仙 台農改：令和7年度第2回仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
- 気仙沼農改：令和7年度第2回普及活動検討会を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○JA新みやぎ南三陸地区担い手研修会・意見交換会が開催されました 令和8年3月6日 気仙沼農業改良普及センター

令和8年1月20日、JA新みやぎ南三陸統括営農センター主催による、南三陸地区担い手研修会・意見交換会が開催され、管内の主要な生産法人、営農組合、関係機関など40人が参加しました。

研修会では、普及センターから、みどり認定、J-クレジット、みえるらべる等について説明するとともに、水稻でみどり認定が受けられる肥料、農薬の使用例について説明しました。また、地域の担い手にとって課題である経営継承について情報提供しました。

意見交換会では、生産者から営農の現状や課題について説明されるとともに、地域農業の振興に向けた意見交換がなされました。

普及センターでは、担い手の経営改善に向け、引き続き支援を行っていきます。

○農業経営研修会を開催しました 令和8年3月17日 美里農業改良普及センター



農業経営を取り巻く様々な課題のうち、人材育成や労働力確保は多くの法人等で共通の課題となっています。これを受け、人材確保に向けた研修会を、JA新みやぎみどりの農業法人連絡協議会およびJA新みやぎみどりの統括営農センターとの共催により開催しました。

講師には社会保険労務士の鈴木大輔氏をお招きし、「多様な人材活用のための労務管理」と題して御講義いただきました。講義では、就業規則を整備する重要性や、雇用主が負うべき安全配慮義務などについて詳しく解説がなされました。

また、近年利用が急増している「スポットワーク」の実情について、株式会社タイミーの東北エリア担当・安齋輝氏より、具体的な利用方法などの情報提供をいただきました。参加した法人からは「非常に参考になった」との感想が寄せられ、スポットワーク活用のポイントや受け入れ時の注意点について理解を深める機会となりました。

○柴田町の担い手法人で法人経営管理指導会を開催しました 令和8年3月23日 大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、効率的、効果的な普及指導活動を展開するため、外部の有識者に委嘱した普及指導協力委員と連携し、担い手法人の経営課題解決に向け支援を行っています。

令和8年3月11日には、プロジェクト課題で重点的に支援している農事組合法人葉坂希望の郷を対象に、普及指導協力委員の鈴木大輔氏（すずき労務経営コンサルタント代表）を講師とした法人経営管理指導会を開催し、法人構成員等9人が参加しました。

最初に講師から、これまでの法人決算書に基づく財務分析と、同規模の法人との比較について説明があり、法人の現在の経営状況について共有しました。

さらに、法人運営について講義があり、経営理念や経営計画の必要性について確認しました。

参加者からは、部門別損益の把握の必要性について意見が出され、営農支援アプリに記録する農作業日誌の記帳ルールについても話し合いを行いました。

普及センターでは今後も専門家と協力しながら担い手法人の経営発展に向けて支援していきます。

○仙南地域乾田直播勉強会を開催しました 令和8年3月23日 大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センター管内では、農地整備事業の進捗に伴い、担い手への農地の集積・集約が進められており、作期分散や省力化が期待できる水稻乾田直播栽培の導入が検討されています。

令和8年3月12日に乾田直播栽培の基本的な技術の習得を目的に勉強会を開催し、生産者及び関係機関含めて64名が参加しました。

講師の東北大学大学院農学研究科大谷隆二教授よ

り、宮城県内における乾田直播栽培技術の特徴や技術の基礎となるポイントについて説明されました。実証試験で10アール当たりの労働時間が4分の1まで削減でき、移植栽培と同等の収量が得られることが実証されており、稲作経営の大規模化に向けて有効な技術であることについて理解が進みました。講義後の質疑応答では、乾田直播栽培に向く品種や移植栽培と比べた施肥量について、積極的に質問が出され、乾田直播栽培への関心の高さがうかがわれました。

講義後には、来年度の新規プロジェクト課題で大区画ほ場での水稻乾田直播栽培に取り組む角田市の農事組合法人さくらファームのほ場で現地検討を行い、播種床の作り方など、具体的なアドバイスを受けました。

普及センターでは担い手の経営発展に向け、低コスト・省力化技術の普及拡大を支援していきます。

○巨理名取地区地域営農推進研修会を開催しました

令和8年3月24日

巨理農業改良普及センター



令和8年2月25日に改正された労働安全衛生法や雇用保険法について学ぶ「巨理名取地区地域営農推進研修会」を開催しました。

研修内容は、「今年施行される労働関係法令の改正ポイント並びに熱中症対策等の実践事例について」と題して、社会保険労務士の阿部裕一氏に、特に労働安全衛生法のポイントについて講義をいただくとともに、昨年義務化された熱中症対策についても具体的な事例を紹介していただきました。

参加者からは、「これまで曖昧だったところを詳しくお聞きすることができて良かった」などの声がありました。

普及センターでは、農業法人等の円滑な運営に向けて支援を行っていきます。

②新たな担い手の確保・育成

○新しい農業のカタチに挑む、青年ファーマー！石巻4Hクラブが通常総会を開催

令和8年3月12日

石巻農業改良普及センター



令和8年3月6日に、石巻地区4Hクラブ連絡協議会の令和8年度通常総会が開催されました。

議事として、令和7年度の事業報告や令和8年度の事業計画等について審議され、議案は全て全会一致をもって承認されました。

令和7年度は、福島県の食肉用馬の牧場と栗原市にある種苗会社の農場、美里町の農薬メーカーの視察を行いました。また、第11回青空マーケット（石巻南浜津波復興祈念公園）に参加して朝採り野菜を販売するとともに、石巻合同庁舎での販売会に参加し、4Hクラブの活動を地域住民の方々にも紹介するなど充実した活動を行うことができました。クラブ員は、クラブの活動を自己研鑽の場や地域の人達と交流する機会として運営に取り組んでいます。

令和8年度も、県外視察はもちろん、各種の販売会へ参加するなど積極的に活動していく予定です。

○美里地区みやぎ農業未来塾「病虫害防除研修」を開催しました

令和8年3月12日

美里農業改良普及センター



近年の記録的な高温等の気候変動に伴い、全国的に病虫害の発生状況が変化しており、従来の防除手法では対応が難しい事例も発生してきています。そこで、管内の青年農業者等の効果的な病虫害防除手法の習得を図るため、令和8年3月4日（水）に、美里地区みやぎ農業未来塾「病虫害防除研修」を美里農業改良普及センターで開催しました。

研修では、古川農業試験場作物環境部の狐塚主任研究員より、「栽培環境の変化に適応した病虫害防除の研究事例」と題し講演いただきました。主に近年被害が拡大しているイネ紋枯病、イネばか苗病、イネもみ枯細菌病の3種の病害について、現地事例から実践的な防除体系まで、具体的な薬剤名も挙げながら幅広く紹介いただきました。

質疑応答では、参加者各自のほ場における病害虫発生状況及びその対応策について具体的な質問も挙がり、参加者が自身の営農における病害虫防除への理解を深め、作物の安定生産につなげるための良い機会となりました。

○令和8年度登米地区農村生活研究グループ通常総会と研修会が開催されました
令和8年3月16日
登米農業改良普及センター



令和8年3月12日に、登米地区農村生活研究グループの通常総会と研修会が開催され、菅原会長を含め会員10人が出席しました。

登米管内には生活研究グループの他に「アグリレディースネットとめ」という女性農業者の担い手が会員となるグループもあり、会員の相互交流を図るため、同日に総会を開催し、併せて研修会も行いました。

研修会では農林水産省作成の動画「性別に基づく一方的な思い込み 地域における役割・分担の再点検」を視聴し、男性だから、女性だから、という思い込みを取り除き、協力し合う体制づくりについて学びました。

総会終了後、昼食をとりながらお互いの近況や来年度の活動について情報共有を図り終了しました。

普及センターでは、令和8年度も生活研究グループの活動を支援してまいります。

○女性農業者を支援！みんなでマルシェ参加講座・交流会を開催しました
令和8年3月19日
栗原農業改良普及センター



女性農業者支援のため、本年度は東北3普及センター（栗原、大崎、美里）合同で「みんなでマルシェ出店にチャレンジ」することを目標に、全3回の講座を開催しました。

講座を締めくくる最終回は、令和8年2月17日（火）にマルシェ出店後の振り返りと交流会を開催し、自分たちの農産物を直接消費者に届けた経験を分かち合い、今後出店する際にはさらにどんなことに配慮すれば良いか学びました。講座後のランチ交流会では、情報交換や近況報告など話しが弾み、地域の垣根を越えた新たな仲間との再会を喜び合いました。

普及センターでは、今後も女性農業者のさらなる活躍のため活動を支援していきます。

○令和8年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催されました
令和8年3月23日
栗原農業改良普及センター



令和8年3月12日（木）に、宮城県栗原合同庁舎会議室で、令和8年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催され、会員33人が参加しました。

通常総会では、令和7年度の事業実績と令和8年度の活動計画が承認されました。

研修会では、栗原市市民生活部介護福祉課介護認定係の角田氏、同課認定調査係の佐藤氏、栗原市社会福祉協議会築館支所築館地区生活支援コーディネーターの高橋氏を講師に招き、介護保険と地域支え合いについてお話いただきました。参加者からは、「社会参加が大切な健康づくりになることが分かりました。」「老後を楽しく過ごしていきたい。」などの声が聞かれました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率

○JA新みやぎあさひな青年部大郷支部で水稲直

播栽培研修会が開催されました
令和8年3月14日
仙台農業改良普及センター



J A新みやぎあさひな青年部大郷支部主催で、水稻直播栽培をテーマとした研修会が令和8年2月24日に開催されました。

研修会は、当普及センターの職員が講師となり、湛水直播栽培や乾田直播栽培について、ほ場準備や水管理などの要点を説明しました。

また、肥料メーカーや農薬メーカーの方も登壇し、直播栽培において重要な肥培管理や雑草防除について、専門的な知見をもとに講義されました。

参加者の中にはまだ直播栽培に取り組んでいない生産者もあり、今後の営農の参考にするため真剣に耳を傾けていました。

水稻直播栽培は省力化技術として注目を集めており、労働力不足や農地集積による経営面積の拡大に対応するため、今後さらに重要な技術となります。

普及センターでは、今後も水稻直播栽培の普及拡大を支援していきます。

○美里地区農業士会研修会「営農支援システムと米の流通ビジネス」を開催しました

令和8年3月4日
美里農業改良普及センター



令和8年2月12日に、美里農業改良普及センターで、生産者等30名を集め、令和7年度美里地区農業士会研修会を開催しました。農業経営の規模拡大や担い手の減少、資材価格の高騰、令和の米騒動などが続く中、農業経営の改善に役立てるため、スマート農業技術による営農支援システムと米の流通ビジネスについて研修しました。

はじめに、宮城県農業振興課の田村亘氏から営農管理システムの概要について説明を受けました。圃場や品目毎の作付計画や実績をパソコンやスマート

フォンで記録し、圃場マップや作業記録、生産コストなどの「経営の見える化」が図られることで、課題の把握や情報の共有、生産の効率化、適切な作業指示、後継者への事業継承など活用のメリットがあるとのことでした。①アグリノート、②KSAS、③ザルビオフィールドマネージャーの3つのシステムの概要が紹介され、使用目的に合わせ活用してほしいと話されました。

次に、ウォーターセル株式会社(新潟市)の武石隆大氏から営農支援システム「アグリノート」について、パソコン等での圃場マップ管理、作付計画・実績、作業日誌、肥料・農薬・資材の管理、農機連携などの機能と操作方法をスライドで説明して頂きました。

また、生産者と米卸・実需者をオンラインで結び米取引を仲介するサービス「アグリノート米市場」の紹介がありました。

参加者からは「圃場管理システムは圃場登録が大変で記録を付けるのは面倒だが、今まで紙や頭の中で管理していたものをデジタル化し、検索・分析・共有して経営課題を解決する手段として活用していきたい。」との意見もあり、大変有意義な研修となりました。

④園芸産地の育成・強化支援

○いちじくせん定講習会が開催されました！

令和8年3月3日
大河原農業改良普及センター



J Aみやぎ仙南蔵王地区いちじく部会では、生産振興に向け生育ステージごとに講習会を開催しています。令和8年2月18日には大河原農業改良普及センター職員を講師に、部会員の園地でせん定講習会が開催されました。いちじくのせん定作業は、厳寒期を過ぎた春を迎える直前の発芽前に行う重要な作業です。

講習会では、初心者からベテランまでの生産者18人が集まり、普及センターからの目標とする樹形や

枝の優先順位のつけ方等の説明と実技後、参加者相互で検討しながら実際にせん定作業を行いました。

今後も普及センターではJA等と連携し、継続して栽培技術指導を行ってまいります。

○JAみやぎ登米胡瓜部会総会が行われました 令和8年3月9日 登米農業改良普及センター



登米市ではきゅうり栽培が盛んに行われ、県内トップの生産量を誇ります。JAでは、令和10年度までにきゅうり販売額の10億円達成を目指し、栽培技術の向上、環境制御技術の推進、新規生産者の確保など、各種取組を展開しています。

2月12日に、JAみやぎ登米胡瓜部会通常総会が行われ、部会員28名が出席しました。総会では、令和7年度事業実績、令和8年度事業計画などが原案のとおり承認されました。また、役員の変更があり、部会設立から7年間部会長を務められた(株)久保園芸の久保氏が部会長を退任され、新たに、副部会長の堀内氏が部会長に選任されました。

登米農業改良普及センターでは、来年度からきゅうりを新規のプロジェクト課題のテーマとし、生産者やJAと連携した様々な支援策を展開予定です。今後もきゅうりの安定生産に向け、積極的な支援を行ってまいります。

○かぼちゃ栽培講習会が開催されました 令和8年3月16日 大崎農業改良普及センター



令和8年3月12日(木)JA加美よつば営農センターにおいて、かぼちゃ栽培講習会が開催されました。

講師の株式会社渡辺採種場からは、育苗管理や定植後の注意点など、栽培のポイントについて説明がありました。普及センターからは、病害虫診断方法や

夏季の暑熱対策について説明しました。かぼちゃは夏の暑い時期に栽培し収穫となるため、夏の高温少雨により栽培期間中の管理に苦慮したり、病害虫の発生が早まったりします。そこで、夏の暑さに備え、熱の伝わり方やかん水の重要性等について、また、早期防除のため自分で病害虫を判断する際に役立つウェブ資料やアプリの使い方などを紹介しました。出席した生産者は、高温対策の技術・資材の活用や、品種の選定など、より良いかぼちゃの生産に向け、熱心に対策の検討をされていました。

普及センターでは、今後も気候変動に適応した野菜生産技術支援を行ってまいります。

○令和8年産ミニトマトでのタバココナジラミ防除対策を検討しました 令和8年3月18日 石巻農業改良普及センター



令和8年3月5日に石巻市桃生地区のミニトマト研究会で病害虫防除講習会が開催され、石巻農業改良普及センターが講師を務めました。

普及センターからはトマト黄化葉巻病及びタバココナジラミ対策のプロジェクト課題の活動経過を紹介し、研究会の皆さんと情報交換や質疑応答を行いました。質疑応答の中では、耐病性品種の有効性が再確認されるとともに、0.4ミリ目合い防虫ネットや天敵放飼など、新たな対策に取り組んでみたいという発言があり、皆さんの危機感と対策強化の意欲が感じられました。

○くりはらスプレーマム研究会通常総会・研修会が開催されました 令和8年3月19日 栗原農業改良普及センター





くりはらスプレマム研究会は、栗原、登米、大崎、美里の4普及センターのエリアにまたがる広域的な組織です。若手からベテランまで、スプレマム生産者たちは常に品質向上を追求し、栽培技術の向上にたゆまぬ研鑽を積み重ねており、組織としては30年目の節目の年を迎えました。

令和8年3月4日(水)に開催された通常総会では、前年度の事業内容及び新年度の事業計画等が議題として提案され、いずれも承認されました。

通常総会後に開催された研修会では、種苗メーカーの担当者を招き、各メーカーのスプレマムの品種を実際に見比べながら、熱心に新品種の情報収集や栽培談義が行われました。

○加工用ばれいしょ種子消毒共同作業が行われました

令和8年3月19日

登米農業改良普及センター



令和8年3月10日、JAみやぎ登米南部園芸セン

ターにおいて、登米ぼてと組合の組合員合同によるばれいしょ種芋消毒が実施されました。

消毒作業には、搬入された種芋をネットやコンテナへ詰め替えるといった、多大な労力と時間を要する工程も含まれますが、組合員相互の協力により、全作業を円滑に完了させることができました。

消毒済みの種芋は各組合員が持ち帰り、適切な温度管理下での浴光催よくこうさい芽を経て、3月末から4月初旬頃に定植される予定です。

普及センターでは、引き続き組合活動への支援を通じて、ばれいしょ生産の安定と発展に尽力してまいります。

※浴光催芽(よくこうさいが):種芋を植える前に、日光(または日陰の明り)に当てて、丈夫な芽を少しだけ出させること。

○きゅうりを活用した地域の味再現で復興を目指す

令和8年3月19日

巨理農業改良普及センター



岩沼市で農業等によるアグリパーク構想を計画している農事組合法人 玉浦南部産組合に対して、専門家と連携した「自社で生産するきゅうりを活用した新商品開発の研修会(全3回)」を開催しました。

この取組は、東日本大震災前から玉浦南地区の各家庭で親しまれていた「きゅうりの漬物」等を再現・商品化を通じ、地域の賑わい創出に貢献することを目的にした事業を支援したものです。

研修では、食品製造の専門家からHACCPの考えに基づいた衛生管理や、アイデアを具現化する手法についてきめ細かな指導を受け、主力商品の試作品を作ることができました。

農事組合法人 玉浦南部生産組からは、「今回の研修で得た助言を活かし、地域の復興を後押しする取組となるよういっそう邁進したい」と、力強い意欲が示されました。

普及センターは、今後も農業法人等の活動支援を通じて、地域農業の活性化に貢献してまいります。

○JA新みやぎあさひなねぎ部会の出荷反省会と総会が開催されました

令和8年3月23日

仙台農業改良普及センター



令和8年3月17日、JA新みやぎあさひなねぎ部会の出荷反省会と通常総会が開催され、部会員28人が参加しました。

出荷反省会では、令和7年産ねぎの出荷実績や販売実績について報告がありました。また、検品時の課題事例などを共有して、部会全体の品質向上への意識を高めました。

普及センターからは、令和7年産のねぎ栽培の振り返りと次年産へ向けた対策について説明しました。令和7年産は夏場の高温・干ばつや集中豪雨などの影響について振り返り、排水対策を徹底し、湿害を防ぐように呼びかけました。

出荷反省会後に開催された通常総会では、今年度の事業報告や来年度の予算案、役員改選などについて協議が行われ、全議案が承認されました。

今後も普及センターでは、JAや部会と連携しながら、あさひな地区のねぎの生産振興を支援してまいります。

○南三陸大粒ぶどう協議会通常総会が開催されました

令和8年3月24日

気仙沼農業改良普及センター



「南三陸大粒ぶどう協議会」の令和8年度通常総会が、令和8年3月23日に開催されました。同協議会は、令和6年度から「しおかぜ葡萄」のブランド名でぶどうを販売しています。会長からは、町内のぶどうは順調に生産量が伸び品質も向上している、町内外にも認知が広がっている、会員を増やしていきたいとあいさつがありました。議事はすべて承認され、令和8年度も「しおかぜ葡萄」の生産拡大に向けて取り組むことを確認しました。

また、総会の議事終了後、普及センターから、令和7年度グリーンな栽培体系加速化事業で取り組んだ無煙炭化器及び電動せん定はさみの検証結果について説明を行いました。

普及センターでは、今後も南三陸大粒ぶどう協議会の活動を支援していきます。

○宮城県農林産物品評会(野菜(いちご)部門)にて巨理管内から2人が受賞しました

令和8年3月25日

巨理農業改良普及センター



令和8年3月13日(金)に、県庁で令和7年度宮城県農林産物品評会(野菜(いちご)部門)が県庁内で開催され、県内から37点の出品があり、市場関係者等を招いて審査が行われました。審査の結果、巨理管内から知事賞1等を「もういっこ」、知事賞3等を「にこにこベリー」の2点が受賞しました。

表彰式は翌日の「いちごマルシェ」開催前に、イオンモール上杉4階KAMISUGI ONE PARKにて行われました。表彰後受賞者代表から、「震災から15年の節目に、このような賞を受けることができ、頑張ってきた良かった。」という挨拶がありました。

「いちごマルシェ」当日は天候にも恵まれ、会場では県内生産者による取れたてのいちごや加工品の販売もあり、親子連れや買い物客等、多くの来場者に喜ばれていました。

受賞された方をはじめ、品評会に御協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

今後も高品質な農産物の生産に向けて技術指導を行ってまいります。

○令和8年産たまねぎ現地検討会が開催されました

令和8年3月30日

石巻農業改良普及センター



令和8年3月9日、JAいしのまき主催による「たまねぎ部会現地検討会」が開催されました。

今作は、昨年9月下旬から10月上旬の播種時期に見舞われた大雨の影響で、苗立ち不良が発生するな

どの厳しい状況となっており、一部の圃場では3月下旬に移植栽培へ切り替えて栽培をやり直すこととなりました。

当日は、石巻管内の直播栽培の圃場を巡回し、現在の生育状況を確認するとともに、移植栽培用の苗の生育を確認しました。令和8年産たまねぎは、直播分は6月、移植分は7月の収穫を見込んでいます。

○JAみやぎ登米米山支部タマネギ部会現地検討会が開催されました 令和8年3月31日 登米農業改良普及センター



令和8年3月24日、たまねぎの現地検討会が開催され、部会員8名が参加しました。

検討会では、普及センターより、今後発生増加が見込まれる病害虫（べと病やアザミウマ）の説明や防除対策、令和8年の気温や降雨等の気象状況、雑草の防除ローテーション、土壌分析の診断結果の見方や活用方法等について説明しました。

検討会のほ場となった生産者は、たまねぎの裏作に緑肥やかぼちゃを栽培し、土づくりや収益向上などの工夫を行っており、これらの点が生産者の興味関心を強く引き、積極的な意見交換がなされました。

今後も、適切な栽培管理についての指導を継続して行い、たまねぎの安定生産に向けて支援してまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○麦類栽培講習会が開催されました 令和8年3月5日 登米農業改良普及センター



令和8年2月27日に、JAみやぎ登米主催による令和8年産麦類栽培講習会が開催され、管内の麦類生産者約15名が参加しました。

普及センターからは、基本的な栽培管理や、これから実施される追肥や赤かび病防除の際に気をつけて

ほしいポイントについて、また、令和7年産の「夏黄金」の調査結果をもとに、穂長や播種時期と収量・品質の関係について説明を行いました。

JA全農宮城県本部からは、実需の求める品質、需要と供給のミスマッチ状況、県産麦の評価や、麦の流通状況について説明がありました。

参加者は、県産「夏黄金」は香りが良く、実需からの評価が高いと聞き、「夏黄金」の生産を増やしていきたいと意欲的な意見が聞かれました。

普及センターでは、今後も麦類の安定生産に向けて支援を行ってまいります。

○令和7年度第3回宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会が開催されました 令和8年3月5日 気仙沼農業改良普及センター

令和8年2月5日、宮城県米づくり推進気仙沼地方本部の令和7年度第3回技術指導部会が開催されました。会議には、県、市町、JAなど関係機関が出席しました。

普及センターからは、1月に発行した「稲作情報総括号」を基に、今年度の稲作の概況や来年度に向けた管理のポイントについて説明し、米づくり地方本部の令和7年度の活動状況について検討しました。

また、米づくり地方本部の令和8年度の基本方針案および活動計画案について協議、意見交換が行われ、気候変動対応や、環境負荷低減に向けた取り組みなど重点推進事項について、確認が図られました。

関係機関からは管内における獣害発生状況や環境保全の取組に関する情報提供があり、出席者間で活発な情報交換が行われました。

普及センターでは、今後も関係機関と協力して高品質米の生産に取り組んでいきます。

○気仙沼地域地域計画実現促進研修会を開催しました 令和8年3月6日 気仙沼農業改良普及センター



令和8年1月16日、気仙沼市表山田振興会館を会場に気仙沼地域地域計画実現促進研修会を開催し、ほ場整備を計画している表山田・三段田地区の生産者と関係機関から21人が参加しました。

研修会では、カネコ種苗株式会社の担当から高収益作物（枝豆）栽培技術等について講演いただき、枝豆の品種と播種・収穫適期、育苗と移植栽培、土づくりと肥培管理等について学ぶとともに、気仙沼地方振興事務所農業振興部から今年度設置した高収益作

物展示ほの結果について説明しました。

研修会後には、気仙沼市主催による地域計画に係る協議が行われ、目標地図を基に現状や将来像について検討され、今後、地区内関係者で協議を行っていくことになりました。

普及センターでは、関係機関と連携しながら、表山田・三段田地区における高収益作物の安定生産や担い手の経営改善を支援していきます。

○令和8年度プロジェクト課題に向けた水稲乾田直播ほ場の土壌サンプリング

令和8年3月9日

大河原農業改良普及センター



令和8年2月19日に角田市の農事組合法人さくらファームと普及センターで区画拡大工事直後のほ場の土壌サンプリングを行いました。この法人は、令和8年度プロジェクト課題の対象であり、整備された大区画ほ場（1～2ha/筆）において、乾田直播栽培による水稲の作付を計画しています。

ほ場では、切土と盛土による土層の移動により地力ムラが想定されることから、土壌中の窒素を把握することが極めて大切です。そこで、9haのほ場から54点の試料を採取しました。

法人構成員と普及センターで数名のグループを組み、広いほ場で土を掘りながら土質状態を確認しました。

今後は、土壌の可給態窒素分析から得られた地力窒素に基づき、施肥の必要性等を判断し支援していきます。

○令和8年産の稲作へ向けて、講習会が開催されました

令和8年3月13日

登米農業改良普及センター



令和8年3月9日に、JAみやぎ登米主催による石越町、中田町、東和町の水稲生産者を対象とした講習会が開催され、生産者約40名が出席しました。

普及センターからは、育苗期間中に発生しやすい病害について説明し、発生抑制のため温度管理等に注意するよう周知を行いました。また、今年も暑い夏が予想されるため、追肥や土づくり、出穂後の水管理として飽水（ほうすい）管理等の高温対策について説明を行いました。

各肥料・農薬メーカーから、除草剤や箱処理剤の正しい使い方や追肥資材やケイ酸資材等の高温対策に向けた資材の紹介が行われました。

令和8年産の稲作開始を間近に控え、参加した生産者も熱心に耳を傾けていました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稲の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行います。

○麦類現地検討会が開催されました

令和8年3月16日

石巻農業改良普及センター



令和8年3月9日・11日・12日に、JAいしのまき主催の麦類現地検討会が、河北・東松島・河南・石巻の4つの地区で開催されました。

幼穂長や草丈、茎数を測定し、幼穂形成期追肥の時期（幼穂長2～3mm）について検討しました。石巻管内における幼穂長は0.5～2mmで、例年と比較して生育はやや遅れている状況です。一方で、今後は気温が高く推移する見込みであり、生育が早まる可能性があることから、生育状況を慎重に見極めつつ、今後の作業日程や追肥時期の判断を行うように指導しました。

石巻管内では、令和7年産で大麦が約830ha、小麦が約176ha作付けされています。当普及センターでは、国産麦の需要に対応できるよう、今後も高品質な麦の安定生産に向けて栽培支援を行っていきます。

○令和 8 年産麦現地検討会が開催されました！
令和8年3月 16日
仙台農業改良普及センター



令和 8 年 3 月 9 日に、J A 新みやぎあさひな統括営農センター主催の令和 8 年産麦現地検討会が開催され、麦生産 10 名が参加しました。前半は室内研修を行い、後半は現地 2 ほ場にて生育状況の確認を行いました。

室内研修では、普及センターから、麦の生育状況や今後の栽培管理のポイントとなる生育ステージに合わせた追肥、赤かび病防除などについて説明しました。

現地検討では、大麦、小麦のほ場の生育量や幼穂長を確認し、麦踏みや追肥のタイミングについて検討しました。また、生産者同士で今後の栽培管理について活発に情報交換が行われました。

普及センターでは、麦類の生産性や品質の向上に向けて、引き続き生産者を支援してまいります。

○令和8年産乾田直播栽培講習会が開催されました！
令和8年3月18日
石巻農業改良普及センター



令和 8 年 3 月 13 日、J A いしのみき主催による「令和 8 年産乾田直播栽培講習会」が開催されました。

講習会では、全農宮城県本部から米穀情勢及び県内の乾田直播の取組状況について、東北農業研究センターから乾田直播栽培に関する技術について講義がありました。

米穀情勢については、令和 7 年産米の生産・販売実績や価格の推移、令和 8 年産米への対応などについて説明がありました。また、県内における乾田直播の栽培面積の推移や、令和 7 年度乾田直播展示圃の概要について説明がありました。

東北農業研究センターからは、プラウ耕鎮圧体系について、十分な碎土と鎮圧によって播種床を整えることや、播種後の鎮圧が漏水防止や種子と土壌の密着性を向上させる重要なポイントであることについての説明がありました。また、雑草を適期に防除するため、積算気温モデルによる出芽予測や、ノビエ葉齢判定アプリの活用等が紹介されました。

当日は、生産者及び関係機関から多くの方が参加し、今後の乾田直播栽培の管理について熱心に耳を傾けていました。

○登米市豊里町佐藤瑛彦氏が令和 7 年度全国麦作共励会において日本農業新聞会長賞を受賞されました
令和8年3月 18 日
登米農業改良普及センター



麦作の生産技術向上や経営改善の面で優れた功績のあった個人・集団を表彰する令和 7 年度「全国麦作共励会」において、豊里町の株式会社エス・ティエフ代表取締役佐藤瑛彦氏が「日本農業新聞会長賞」を受賞し、令和 8 年 3 月 2 日に東京で表彰式が行われました。

佐藤氏は、スマート農業技術の積極的な導入や、実需者との直接的な交流によるニーズに即した小麦栽培の実践など、先進的な取り組みを展開されています。特に、生産技術の向上と経営改善を両立させた創意工夫が高く評価され、今回の受賞となりました。

3 月 16 日に佐藤氏が宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所を表敬訪問されました。佐藤氏は受賞の喜びとともに、「今回の受賞は周りのみんなの協力によって受賞することができた。今後もより品質の高い小麦生産に励んでいきたい。」と、これからの麦作への意欲を述べられました。

普及センターでは、これからも地域農業の担い手の取組を支援してまいります。

○「にじのきらめき」栽培講習会が開催されました
令和8年3月30日
登米農業改良普及センター



令和8年3月26日に、JAみやぎ登米主催による高温耐性及び多収性品種「にじのきらめき」栽培講習会が開催され、管内の生産者約10名が参加しました。JAみやぎ登米管内では令和8年産から「にじのきらめき」の作付け面積が増加する見込みです。

講師の農研機構東北農業研究センターの関矢主任研究員から、品種の特性や、栽培のポイントについて詳しく説明がありました。短稈で耐倒伏性に優れており、多肥栽培が可能、高温耐性が“やや強”で、高温年の白未熟粒の発生がコシヒカリよりも少ないなどが品種の特徴です。晩生で登熟積算気温の目安が1,100~1,200℃と、ひとめぼれ(940~1,100℃)より高いため、収穫時期は同じく晩性のつや姫よりもさらに遅くなると思われます。

講師からは、他にも乾田直播栽培技術の抑えるべきポイントや、作業支援アプリの紹介などがありました。

普及センターでは、令和8年産にじのきらめきの展示ほを設定し、生育調査を行う予定です。今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

⑥地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○宮城県漁業士会中部支部と石巻農業士会の交流会が開催されました
令和8年3月4日
石巻農業改良普及センター



令和8年2月25日、「いしのまき元気いちば」の元気食堂にて、宮城県漁業士会中部支部および石巻農業士会による交流会が開催されました。

当日は一般の方を含む60名以上が参加し、両会の会員が生産した新鮮な農水産物を食材として、地元で人気の料理人が腕によりをかけたメニューが提供されました。

参加者は、いちご、ちぢみほうれんそう、スリムねぎ、仙台牛などをふんだんに使用した料理に舌鼓を打ち、改めて、浜と耕土に恵まれた地元食材の豊かさを実感されていました。

今回の取り組みを通じて、宮城県の漁業士および農業士と、地元の料理人や消費者とのつながりが今後さらに深まることが期待されます。

○やくらい土産センター活性化研修会を開催しました
令和8年3月9日
大崎農業改良普及センター



加美町の葉山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会（以下、さんちゃん会）が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、売上げが減少傾向にあるため、普及センターと加美町では、経営改善に向けた様々な支援を行っています。

さんちゃん会では今後の経営発展のため、現在の農事組合法人から株式会社へ移行する計画があります。そこで、令和8年3月4日に、農事組合法人から株式会社への組織形態の変更を行った先進事例である角田市の株式会社舘島田D e r oの大泉代表、小野相談役をお招きし、変更までの経緯や変更後の組織形態、複合経営に取り組むメリット、若手経営者への事業継承などについてお話を頂く研修会を開催しました。

当日は組合員 23 名の出席があり、参加者からは多くの質問が出され、今後のさんちゃん会の経営発展に向け大変有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後もさんちゃん会の経営発展に向けた支援を行っていきます。

○直産まっちゃんの勉強会が開催されました 令和8年3月12日 気仙沼農業改良普及センター



令和8年3月10日、直産まっちゃんの勉強会が開催され、会員12名が参加しました。

直産まっちゃんは、フレイル予防や地域住民との交流の場づくりを目的に、健康で楽しく支え合うことを目標として気仙沼市新月地区で立ち上げられた団体です。

当日は、普及センター職員が講師を務め、大根やネギなどの野菜、スターチスやグラジオラスなどの花きの栽培ポイントについて説明しました。参加者からは積極的な質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。「次回の販売会に向け、さっそく実践したい」といった声が聞かれました。

今後も普及センターでは、直産まっちゃんの活動がさらに充実するよう、勉強会等を通じて支援してまいります。

○いちご観光農園における販売接客研修会を開催しました 令和8年3月17日 巨理農業改良普及センター



株式会社オハナでは、令和7年度にいちごの選果場・加工場を整備し、従来のいちご摘み取り体験に加え、自社農園で採れたいちごを原料にしたスムージーを販売する計画です。

そこで、令和8年2月12日、3月5日に専門家を講師にお招きし、顧客が「また来たい」と思う感動体

験を提供するための接客やいちごスムージーの対面販売でのオペレーションを学ぶための研修会を開催しました。研修会では、整理整頓や従業員の身だしなみ・清潔感など、開店前から接客は始まっていることや、乳製品を扱うので、アレルギーに注意する呼び掛けの掲示が大切であること等を学びました。また、完成したばかりの加工場で、スムージーの製造から販売までを実習し、動線の確認や改善点を明らかにすることができました。参加者からは「来客数が増えるいちご狩りシーズン前に学ぶことができ、有意義な研修だった」との感想がありました。

当普及センターでは、いちごをはじめ管内農産物のさらなる活用に向け、支援してまいります。

○村田ファームズ総会にて研修会が開催されました 令和8年3月19日 大河原農業改良普及センター



令和8年2月5日(木)に、道の駅「村田」で、出荷団体「村田ファームズ」の総会に合わせて研修会が開催されました。

研修会では、県の園芸流通ビジネス相談員から、見映えの良い品づくりと販売場所等の管理方法について、普及センター職員から農薬の適正使用について日頃の活動での具体例等を説明しました。

参加者は、各講師からの説明をうなずきながら聴く姿勢が見られ、「何回でも来たくなる直売所」づくりへ向けての意欲を感じることができた研修会となりました。

普及センターでは、これからも生産者等の直売活動を様々な方面から支援して参ります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①その他

○第2回石巻地域普及活動検討会を開催しました
令和8年3月2日
石巻農業改良普及センター



2月13日に、石巻合同庁舎において令和7年度第2回石巻地域普及活動検討会を開催しました。今回は、普及センターから今年度実施している4つのプロジェクト課題の実績や、来年度の普及計画の概要、プロジェクト課題計画案等について内容を説明した上で、先進的な農業者、学識経験者等から成る5名の検討委員の方々から、実績や計画内容について意見や提案をいただきました。これらは、次年度以降の計画等に反映し、石巻地域の農業振興に活かしていきます。

○令和7年度第2回仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
令和8年3月5日
仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターでは、今年度第2回目となる仙台地域農業普及活動検討会を令和8年2月9日（月）に開催しました。この検討会は、外部有識者等から普及活動に対する意見や評価をいただく場として実施しています。

今回は、令和7年度の活動の総括として、4つのプロジェクト課題の取組状況について、各課題リーダーから報告しました。続いて、令和8年度普及指導計画（案）として、次年度実施するプロジェクト課題及び重点活動の概要について説明しました。

検討委員からは、「プロジェクト活動の成果が多く、多くの農業者に広まり、省力化や所得向上につながることを期待する」「今後も普及センターの活動に期待している。」等の評価をいただきました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決に向け、いただいた意見や評価を参考に、関係機関と連携しながら普及活動に取り組んでまいります。

○令和7年度第2回普及活動検討会を開催しました
令和8年3月5日
気仙沼農業改良普及センター



令和8年2月9日、気仙沼合同庁舎を会場に、令和7年度第2回普及活動検討会を開催しました。この検討会は、気仙沼農業改良普及センターが取り組む普及指導活動について、外部有識者など検討委員による客観的な評価を行い、より効果的・効率的な普及指導活動に役立てることを目的としており、年2回開催しています。

2度目となる今回は、令和7年度の2つのプロジェクト課題について1年間の活動内容や成果を発表するとともに、令和7年度重点活動の活動状況について報告し、検討委員からは様々な角度から貴重な助言や意見をいただきました。

普及センターでは、検討委員からいただいた意見等を踏まえ、今後も効果的・効率的な普及活動に取り組んでいきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

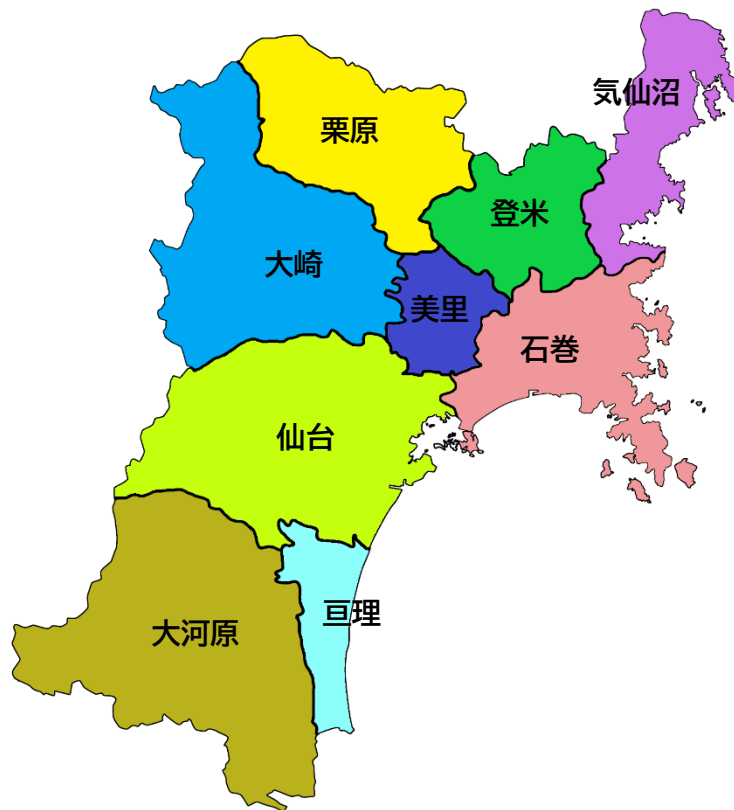
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.230

発行日:2026年4月30日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@PRef.miyagi.lg.jp